

[共同研究]

ユーラシア内陸地域の経済発展における立地優位性とインフラの重要性

共同研究者

代 表	陸 亦 群 (日本大学経済学部教授)
	リ ケ (日本大学経済学部教授)
	呉 逸 良 (日本大学経済学部教授)
前 野	高 章 (日本大学通信教育部教授)
羽 田	翔 (日本大学法学部准教授)
安 田	知 絵 (日本大学生産工学部専任講師)

はしがき

本研究は、ユーラシア内陸地域の輸送競争力の増強に伴う地域の立地優位性の変化と地域経済発展の関連性について、開発経済学の視点から、理論的実証的に考察を行うことを目的とするものであり、ユーラシア内陸地域、とりわけユーラシア中央地域や中国西部・東北部都市を研究対象としている。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックおよびロシアのウクライナ侵攻にユーラシア地域の地政学的リスク等の影響を強く受けたが、海外研究機関や大学研究者の方々の協力を得ながら研究を進めた。本共同研究の研究成果として次に示す各論文が提出された。

呉・前野の論文は貿易コスト、立地優位性と内陸地域の経済発展に焦点を当てている。呉・前野の論文では、陸上輸送条件の非均一性の条件を経済モデルに取り入れ、中国と新シルクロード沿線国との貿易データから貿易コストの計測を試み、インフラによる改善区間距離が十分ではないことがユーラシア内陸地域の陸上輸送競争力の向上の障害になっていることを明らかにしている。前野・呉の論文では、中国東北地域および北東アジア地域における潜在的な経済開発の可能性を見据え、広域図們江開発地域に属する中国東北三省の最北に位置する黒龍省の対外取引に着目し、隣接・近隣諸国との貿易構造の特徴を考察している。

陸・安田の論文は、貿易の役割、貿易構造変化と内陸地域・辺境地域の経済発展に注目し、陸・安田の論文では、開発経済の視点からユーラシア内陸地域に地続きする北東アジア経済圏にフォーカスし、黒龍江省、吉林省、遼寧省を研究対象に、貿易構造転換が辺境地域の成長拠点の形成にどのようなインパクトを与えたかを明らかにしている。安田・陸の論文では、中国南部と東アジアにおけるメコン川流域に含まれる5ヵ国・2地域の貿易構造を産業レベルで分析し、その競争力の変化から当該地域の貿易構造の変化に関する考察が行われている。

羽田とリケの論文は産業ネットワーク、クラスターと地域経済発展に着目している。羽田論文では、コロナ禍前後の中国国内における空間的な経済ネットワークの変化について分析を行い、ネットワーク分析の結果から、中国国内の経済ネットワークの中心性は、北京、上海、重慶、遼寧などの沿岸地域の省・市に集中しており、コロナ禍後でもこの構造は変化していないことを明らかにしている。リケ論文では、パンデミック後の世界経済の新時代における産業クラスター、分業ネットワーク、専門化と集積の経済の相互関係とルールを定式化し探求するための内生的産業クラスターと内生的産業分業ネット

ワークを用いた一般均衡モデルを構築している。

以上、本研究の成果として計 6 本の論文が提出された。このような貴重な研究機会を与えてくださった日本大学経済学部経済科学研究所に感謝を申し上げる次第である。